

今年から出来る良質な自給飼料確保へ 向けてのポイント

いつも弊社商品をご用命賜りありがとうございます。昨夏の猛暑の影響により、受胎が遅れこれから分娩のピークを迎えられる方も多いと思われます。1番草の収穫作業と重なり、大変お忙しい状況であると拝察致します。

輸入穀物価格の上昇は既知の通りであり、良質自給飼料の確保のスピードをもっと上げる必要があると思われます。しかし「土作り・草作りは一生の仕事」との先達の言葉もあるように、目に見えた経営への即効性は期待できません。良質自給飼料確保は一年一年の積み重ねが肝要となるため、「少しづつでも自給飼料が良くなってきた」と思える取り組みが次年度以降のモチベーションの維持にもつながり、重要であると思われます。

良質粗飼料収穫に向けて今すぐ取り組めることについて、まとめてみましたので、参考にして頂ければ幸いです。

①草地に何が生えているのか歩いて確認する

現在の草地の状況を確認することは、何が問題なのか、どのように改善を進めていくかを決めていくために重要な作業です。現在の酪農家さんは畑をトラクターの上からしか見ていない方が多いと思います。実際の草地に何が生えているかは私どものように草地のプロでさえ、手にとって見てみないと判断できません。良い草地とされている草地が雑草しか生えていないことは良くあることです。シバムギなどの地下茎型の雑草が50%以上ある草地は是非、夏播きでの更新をお勧めします。

草地の植生診断を希望される方は是非、弊社営業所までお問い合わせ下さい。

②牧草の刈り高を10cmくらいまで上げる。

チモシーは刈取り後、球茎に残された養分を利用して再生します。刈高5cm程度の場合チモシーの再生に悪影響を及ぼす可能性があることが言われております。再生が悪いとシバムギなどの地下茎イネ科雑草の侵入を許すばかりか、圃場にある異物(スラリー・堆肥など)がサイレージに混入し、発酵品質の良いサイレージが確保できなくなります。心配される収量については1番草が若干減収となりますが、再生力の向上により2番草は増収が期待されますので、年間を通じての収量は大きな変動がないと思われます。またチモシーの株の維持により、チモシーの永続性も期待できますので、是非取り組んで頂きたい技術です。

③草地更新した新しい畑の草はわかるように保管し、一番分娩の多い時期に食べさせる。

最近ではコントラクターなどを利用し、大型バンカーにサイレージを収穫するケース多くなっております。収穫作業の効率化が求められており、作業のし易い順番にバンカーに堆積されていくことが多く、折角更新した草地の草がどこに保管されているかわからない状況になるケースも多いと思われます。突然バンカーのサイレージが黒くなり、軟便な牛が増え、乳房炎が多発した。原因を調べたら新播の草にいつの間にか変わっており、飼料給与の見直しを至急行なった。との経験はないでしょうか?この場合草地更新した粗飼料は経営に寄与できているでしょうか?

粗飼料の違いを一番実感できるのは泌乳最盛期の牛群管理時ではないかと思えます。分娩後の乾物摂取量を上げていくことは、乳生産において最重要項目であり、その時に給与する粗飼料の品質の影響を受けやすい傾向があります。

ラップサイレージの場合は新播と記入して置く場所を別にします。グラスサイレージの場合は小さいスタックに詰めるなど工夫により、更新した草地の草を、今年一番搾らなければならない時期に、給与できるような計画を組むことは無駄にはならないと確信しております。今年は今が勝負時の方が多いと思われれます。2番草のバンカーを空けるため、2番を食べさせることも重要ですが、ミニスタックを活用することで、夏場の二次発酵の問題も解決しやすくなる部分もありますので、是非実施をご検討下さい。

④草地更新時は雪印種苗の種子を利用する。

最後は宣伝になってしまい恐縮ですが、弊社は「健土健民」を企業理念とし、地域に適合した牧草・飼料作物種子の品種の育成とお客様のニーズに応えた商品・生産技術の開発を行なっております。弊社営業マンを自給飼料良質化の課題解決のパートナーとご指名頂き、変化する時代に何を実行していくか、ご相談いただけますようお願い申し上げます。

(販売企画課 浅沼 康之)

雪印種苗株式会社

編集発行人 岡村 一範
本社004-8531札幌市厚別区上野幌1条5丁目1番8号

TEL (011)891-5911

FAX (011)891-5774